

マキノ病院ニュース

第94号

—平成28年10月1日発行—

着任半年が経ちました。

看護部参与 松本 美和子

平成28年4月から勤務させていただいています。大津赤十字病院を始め、高島市民病院、今津病院、そしてマキノ病院と湖西の病院を南から北へと移ってきました。このマキノ病院が最後の勤務先となると思いません。それぞれの病院には特徴(機能)があり、その中に入り込まなければ見えない・理解できないなかつたことが沢山あります。外から見える(感じる)のと、中において見るのでは、大きな違い・差がありました。市民病院勤務中は、根拠のない自信やプライドを持って勤務していました。民間病院に勤めさせて頂き、外から見える医療・看護と、中で見る医療・看護には大きな差があり、三病院には夫々特徴はありますが、医療も看護のレベルも全く差の

ないことを実感しました。むしろ、民間病院の方が丁寧で、色々な面で真摯に取り組み努力されていると感じました。さて、日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでいて、65歳以上の人口は現在3000万人を超えており(高齢化率24.7%、ちなみに高島市は33.3%)、2042年の約3900万人でピークを迎え、その後も75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。団塊の世代が75歳以上になる2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、更に増加することが見込まれ、このままいくと私達団塊の世代は、住む場所も死ぬ場所もないとも言われています。そのため、2025年を目途に、国は対策として、高

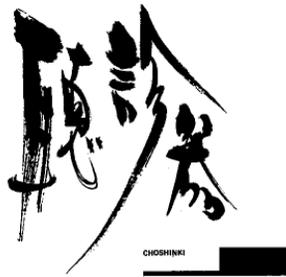
齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。最大のポイントは、高齢者が住み慣れた地域で介護や医療・生活支援サポート及びサービスが受けられよう市町村が中心になり、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を包括的に体制を整備していくという点です。これまでの国主導の高齢者福祉事業やサービスが市区町村主体で行われることにより、高齢者が住み慣れた地で行政・民間企業・ボランティア団体が自由に、自主的に地域づくりをしていくことが求められているのが地域包括ケアシステムなのです。地域包括ケアシステムは、



診療科のご案内
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科
リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



最近テレビなどでB型肝炎訴訟やC型肝炎治療についてのCMを見る事が多くなっています。B型肝炎やC型肝炎はウイルスが原因で起こる肝炎です。肝臓の病気と言えはアルコールを思い浮かべられる方が多いと思いますが、日本では肝硬変の原因は60%がC型肝炎、14%がB型肝炎と言われており、アルコールが原因のものは13%に過ぎません。また原発性肝癌の94%を占める肝細胞癌の65%にC型肝炎、15%にB型肝炎が関与していると言われています。ウイルス性肝炎はA型、B型、

C型、D型、E型がありますが、そのうち慢性肝炎・肝硬変を起こすのはB型とC型です。B型肝炎、C型肝炎は血液を介して感染しますが、B型肝炎は大人になって感染したものは、ほとんど慢性化せず、慢性化するのには母子感染によるものがほとんどです。C型肝炎では以前は輸血

炎感染者130万人、C型肝炎感染者150万人、200万人おられると推測されています。B型肝炎感染者の約9割は自然に病態が安定しますが、1割は炎症が持続し、年率2%で肝硬変に移行し、肝細胞癌、肝不全に進展すると言われています。また、C型肝炎

は以前よりインターフェロン注射による治療が行われてきたが、インフルエンザ様症状、血球減少、抑うつ・不眠などの副作用があり、間質性肺炎などの副作用があります。そのほかに核酸アナログ製剤という飲み薬の選択肢も活動を抑え、肝臓の進展を抑制しますが、副作用に腎障害があります。比較的安全に使用することが出来ます。

これまでC型肝炎に対してインターフェロンによる治療が行われてきました。しかし副作用のため治療が続けられなかったり、高齢の方には使用出来なかった事が多かったのですが、最近、飲み薬で副作用がほとんど無く、治療期間は12週間で有効率は90%以上という薬が登場しました。このようにB型肝炎、C型肝炎の治療は最近劇的に進歩していま

肝炎治療について

肝臓内科 飯沼 昌二

によるものがよく知られていました。が、刺青、静脈注射、ピアスの穴開け等でも感染することがあります。

近年、B型肝炎母子感染防止事業や輸血血液の厳重なチェックのおかげで新たな感染は激減しています。しかし、日本では今なおB型肝炎

では40歳の方が70歳になるまで治療を受けなくて放置していると100人中10〜16人が肝硬変に、20〜25人が肝細胞癌になると言われています。

このように放置しておくに恐ろしい病気ですが、最近治療法が劇的に進歩しました。B型肝炎に対して

すので、現在、この病気にかかっておられる方は、積極的に検査・治療を受けられることをお勧めします。また、平成4年以前に輸血を受けられた方、血液凝固因子製剤や平成6年以前にフィブリノゲン製剤の投与を受けた方、大きな手術を受けた方、臓器移植を受けた方、過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、血液透析をしている方は滋賀県では無料で検査を受けることが出来ます。

(詳しくは、保健所でお尋ねください。)そして、上記治療の適応の方は、申請をすれば国からの医療費助成を受けることが出来るため、この治療に対する1ヶ月あたりの患者さんの負担は1万円または2万円(所得額に応じて変化します)です。ひよつとして私も?と思われた方は一度受診してみてください。